

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成 21 年度第 4・四半期
(平成 22 年 1~3 月)



目黒区産業経済部産業経済課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 22 年 1～3 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
(3) 調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 22 年 3 月）	24
4. 特別調査「デフレ不況下の中小企業経営」について	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調査の概要

1. 調査時期 平成 22 年 1～3 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	101	101
卸 売 業	30	29
小 売 業	49	48
サ ー ビ ス 業	49	49
建 設 業	43	41
合 計	272	268

調査実施機関 社団法人東京都信用金庫協会

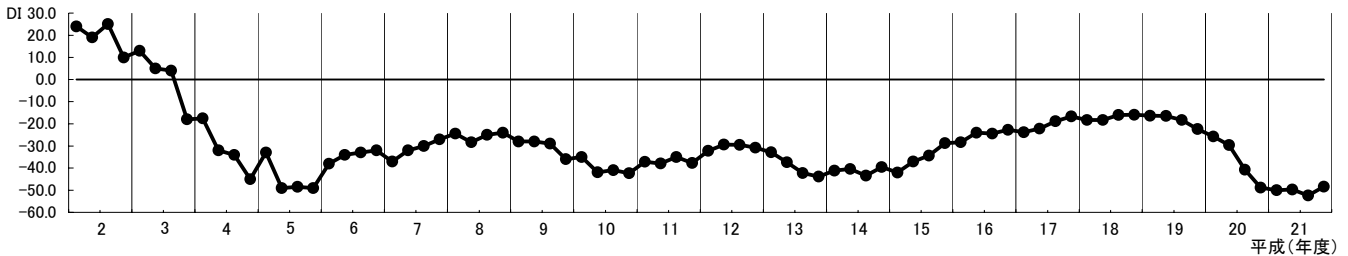
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成22年1～3月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は改善の兆し
～製造業と卸売業がけん引～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は△48.4（前期は△52.3）と前期に比べ 3.9 ポイント改善した。特に製造業と卸売業が大きく改善した。来期は、小売業が今期並の推移だが、他の業種は幾分厳しさがゆるむと予想している。

	前 期	今 期	増 減	今期予想	来期予想
製 造 業	-58.8	-50.6	8.2	-54.7	-46.1
卸 売 業	-52.2	-46.4	5.8	-47.6	-40.9
小 売 業	-51.7	-51.2	0.5	-51.2	-49.6
サ ー ビ ス	-47.1	-46.8	0.3	-44.9	-41.0
建 設 業	-48.2	-45.9	2.3	-45.9	-41.9
不 動 産 業	-33.0	-33.1	-0.1	-34.2	-26.8
総 合	-52.3	-48.4	3.9		

（集計システムの変更により、前期の数値が異なる場合があります。）

<製造業>

前期の予想以上に業況は水面下ながら大きく悪化幅が縮小した。売上額・受注残・収益も減少幅が縮小した。原材料価格はほぼ横ばいで安定し、販売価格は前期同様の大幅な下降で推移した。

業種別にみると、「建設用金属」「食料品」は低調感を強めたが、「精密機械」「ゴム製品」「電気機械」「化学工業」「一般機械」「プレス・メッキ」は大きく悪化幅が縮小した。

来期の業況は、水面下ながらさらに厳しさが和らぐものと予想している。売上額・受注残・収益はともに水面下ながら大幅に改善されるものとみている。

<卸売業>

業況は水面下ながら幾分改善し、2年ぶりに上向いた。売上額・収益はともに厳しいながら改善し、1年前の水準まで持ち直している。価格面では、仕入価格は下降幅が縮小し、販売価格は下降傾向が一服したものの、引き続き厳しい状況が続いている。

業種別では、「鉱物・金属材料」は引き続き大変厳しい状況が続いているものの、その他の業種は厳しいながらも上向き、なかでも「化学製品」は大きく上向いた。

来期は、売上額・収益とともにさらに減少幅が縮小し、業況は、引き続き上向くと予想している。

<小売業>

前期、過去最低の値まで落ち込んだ業況は、今期も底ばい状態が続いている。売上額・収益はともに前期並の減少が続き、大変厳しい数値を表している。価格面では、仕入価格は前期並の低下基調で推移し、販売価格は引き続き下降傾向が続いている。

業種別では「家電・家庭用機械」「スポーツ用品・玩具」が大きく改善し、「書籍・文房具」「繊維・衣服・身の回り品」「家具・建具・じゅう器」も厳しいながらも幾分上向いている。一方、「飲食料品」「カメラ、時計・眼鏡」はさらに悪化が強まっている。

来期は売上額・収益がやや持ち直すものの、業況は、引き続き底ばい状態が続くと予想している。

<サービス業>

業況は、前期並の悪化幅で推移した。売上額・収益とともに前期同様の減少幅で推移した。価格面では、材料価格は上昇幅がわずかに拡大した。料金価格は前期同様の低下基調が続いている。

業種別にみると、「情報サービス・調査・広告」は、大きく悪化幅が縮小した。一方「娯楽」はかなり悪化傾向が強まった。「洗濯・理容・美容」「自動車整備・駐車場」は前期同様の厳しさが続いている。

来期の業況は、水面下ながら大きく悪化幅が縮小するものと予想している。売上額・収益についても水面下ながら大幅に改善するものとみている。

<建設業>

業況は、「悪い」と回答した企業が1.4ポイント減って54.6%となり厳しさが緩んでいる。売上額・受注残・施工高・収益もわずかに減少が弱まり、特に受注残は6ポイント改善している。材料価格はほぼ横ばいで変化なく、請負価格はわずかに下降が弱まっている。

「大企業請負」「官公庁請負」「個人請負」は厳しさが弱まっている。「中小企業請負」は前期同様の厳しさが続いている。

来期の業況はさらに厳しさが緩む見込みである。売上額・受注残・施工高・収益はさらに減少が弱まり改善してくるとみている。材料価格は変動なく横ばいの推移で、請負価格はさらに下降が弱まると予想している。

<不動産業>

業況は横ばい状態にあり、前期と同様の厳しい状況が続いている。売上額・収益ともに前期同様の減少が続いている。販売価格の下降はやや弱まり、仕入価格の下降も弱まっている。

「建売・土地販売」は3期連続で改善がみられたが、今期は厳しさが強まっている。「不動産代理・仲介」はわずかに業況の厳しさが緩んだ。

来期は業況の厳しさが緩み、売上額・収益の減少が弱まってくると予想している。販売価格・仕入価格ともさらに下降が弱まると予想している。

[注]

ディフュージョンインデックス

○D.I (Diffusion Index の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方法です。